インデックス 133
はじめに 134
重要事項 135
本バイクおよびパーツのガイド 136
バイクの運転および交通安全に関する重要なルール 137
走行前 - 注意すべき重要事項 138
各走行前 139
バイクの整備 140
バイクの組み立て 141
クイックリリース機構の使用 143
ホイールをしっかり取り付ける方法 143
ペダル・システム 144
フレーム・セットの組み立て 145
フォークの切断および取り付け 146
特別なニーズに合わせてバイクを調節する 146
設定 147
ヘッドセット 150
ブレーキ・レバーおよびハンドルバーの調整 151
ギア 152
ホイール 153
摩耗や亀裂に関する注意事項 154
リムおよびリム・ブレーキ 154
スポークの張力およびリムの正常さ 154
カーボン・ファイバーの特徴 155
カーボン・ファイバーの整備 155
バイクの適切なケアおよび点検に関する注意事項 156
推奨トルクの要件 156
公道での走行 - 法的要件 157
制限付き保証制度について 157

PREVIEW
NOT FOR OUTPUT

はじめに

この度はニールプライド社製の新車バイクをご購入頂き有難うございます。当社の製品をお選び頂いたことに感謝するとともに、お客様が本製品を末長くご愛用頂けることを願います。本取扱説明書を通じてニールプライド社製バイクに対するご理解を深め、高レベルの性能をお楽しみ頂ければ幸いです。

本取扱説明書には、ご購入頂いた新車バイクの整備やお取り扱いに関する基本的な指示事項、構成パーツに関する包括的な情報、健康および安全に関する一般的な注意事項、より効果的なご使用方法に関するアドバイスが記載されています。熟練のサイクリストの方も含めて、本製品を使用される皆様が本取扱説明書をよくお読みになられることをお勧めします。近年、バイクの開発や技術は進化しており、サイクリストの皆様はこれらの情報について熟知しておくことが重要です。

尚、本製品をご使用になられる方の技術や経験などの要因により、場合によっては本取扱説明書に記載されている指示事項や注意事項だけでは足らず、より詳細な説明が必要な場合があることをご了承下さい。
アップグレードやご使用目的の内容によっては、本書には記載されていない追加パーツやカスタマイズされたパーツが必要な場合もございます。本書では、お客様が知っておく必要がある重要事項をなるべく網羅するよう配慮されていますが、バイク技術に関するすべての情報を本取扱説明書に記載するのは不可能である点をご理解下さい。

サイクリングは危険を伴うアクティビティです。従って、ご自身ならびに周囲の方々にくれぐれも気をつけ、注意を払って下さい。バイクを運転している間、ご自身で責任を持って常にコントロールする必要がございます。あらゆるスポーツまたはリクリエーション活動において、事故が起こる可能性がございます。すなわち、ご自身並びに他人に損傷や怪我を負わせる危険があります。バイクを運転する際、必然的にこれらの危険の責任を負うことになります。従ってバイクを運転する際には、他のサイクリスト、歩行者、静止物、移動中の車に常に十分注意して下さい。常識に従い、飲酒後や薬の影響下にある場合はバイクを運転しないようにして下さい。上記の状態でバイクを運転した場合、反応が鈍くなるため、国によっては違法であるだけでなく、非常に危険です。また、疲労している場合はバイクに乗らないで下さい。自分以外の人を乗せて本バイクを運転しないで下さい-本製品は1名のみの乗車用に設計されています。最後に、適切にフィットするヘルメットを常に着用し、走行中はハンドルバーに必ず手を置いて下さい。

PREVIEW
NOT FOR OUTPUT

重要事項

本取扱説明書には、ご購入頂いたバイクの正しい組み立て手順に関する情報とともに、本製品に関する重要な警告や注意事項が記載されています。また本書には、ご購入頂いたニールプライド社製フレーム・セットに関するガイドラインや特別な整備方法、保証情報なども記載されています。バイク一式をご購入されたお客様は、パーツのサプライヤーによって提供されている、あらゆる警告や注意、指示事項、保証情報もよくお読みください。これらの重要な指示事項や警告は、ご購入頂いたニールプライド社製バイクに付属している取扱説明書の一部とみなされます。

本取扱説明書は欧州の法律を適用し、CE規格EN 14781のあらゆる要件に適合しています。本バイクを配送する際、メーカーは追加の取扱説明書を提供することが法律によって義務付けられています。詳細については以下のサイトをご参照ください：www.neilprydebikes.com。個人の安全のため、絶対的な確信が無い場合は、ご購入頂いたバイクの組み立てまたは調整をご自身で行うことをお勧め致しません。ご懸念やご質問等がある場合、またより詳しい情報が必要な場合は、下記のアドレスまでメールにてお問い合わせください：info@neilprydebikes.com

PREVIEW
NOT FOR DISTRIBUTION

本バイクおよびパーツのガイド

バイクの運転および交通安全に関する重要なルール

1. 常に地元の交通規則に従って下さい。
2. バイクの運転を開始する前に、バイクのサイズが合っていることを確認し、ブレーキ・レバーに容易に手が届くことを確認して下さい。
3. 走行前にブレーキが適切に機能することを確認し、適切なレベルまでタイヤに空気が入っており、その他のあらゆるパーツが適切に機能することを確認して下さい。
4. 夜間にバイクを運転する場合は、常にライトを使用して下さい。また、リフレクターがバイクに適切に取り付けられていることを確認して下さい。
5. 決して一人用に設計されているバイクに1名以上乗って走行しないで下さい。
6. バイクを運転しながら、別の移動中の車に乗ろうとしないで下さい。
7. 決して公道で走っている車の列に出入りしたり、競争したりしないで下さい。
8. バイクを運転する際は、停車している車（常に誰かがドアを開ける可能性があります）や、急にハンドルを切る、または車線から離れてくる車に注意して下さい。
9. 左折または右折する際は、適切なシグナルを用いて他の道路利用者に警告してください。
10. バイクに積んでいるあらゆる積荷がバイク後部にしっかり固定されて取り付けられていることを確認してください。決して視界を遮る恐れのある　物や、ブレーキの作動に支障をきたす恐れのある物、またはブレーキの制御を妨げる恐れのある物を運ばないで下さい。
11. バイクを運転する際は、必ず適切にフィットするヘルメット、およびグローブなど、必要と思われるその他の保護具を着用して下さい。
12. ペダルに足を置いた時にサポートが受けられるよう、適切なシューズ（靴底が固いシューズ）を常に着用してください。
13. バイクを運転する前に、ブレーキが適切に機能することを再確認して下さい。また、ハンドルバーがきつく締め付けられて取り付けられていることを確認してください。
14. 特により過激な走行スタイルを試みる場合は、ご自身の運転技術の限界をわきまえて下さい。適切な指導やトレーニングを受けることにより、バイクの運転に伴うリスクを大幅に軽減することができます。
15. 運転を楽しみながらも、周りの環境に常に注意し、何よりも安全を維持して下さい。

PREVIEW
NOT FOR DISTRIBUTION

走行前 - 注意すべき重要事項

1. **バイクのブレーキ・システムの作動について**
   ニールプライド社製の標準バイクでは、左ブレーキ・レバーによってフロント・ブレーキを操作します。自分が慣れている位置に両ブレーキ・レバーがあることを確認することが重要です。ブレーキ・レバーが適切な位置にない場合は、新しい構成に慣れるまで、安全な環境（空の駐車場など）で練習することをお勧めします。うっかりフロント・ブレーキのみを使用した場合、バイクから投げ出される可能性があることにご注意下さい。新しい構成に慣れる事が出来ない場合は、専門家に依頼してブレーキとレバーの配置を変更して下さい。ご購入頂いたニールプライド社製の新車バイクには、恐らくお客様がこれまでにご使用されてきたどのブレーキ・システムよりも強力な最新ブレーキ・システムが採用されています。本バイクとそのブレーキ・システムの感触を味わうため、できれば車や歩行者のいない場所でバイクの運転練習を行うことをお勧め致します。少しずつ加速および減速を行うように心がけて下さい。

2. **ギアの種類および機能についての理解**
   ギアの種類と機能について熟知していない場合は、自信がつくまで車がまったく無い場所でギアの使用を練習する必要があります。フロントおよびリヤ変速機のギアを同時に変更しないで下さい。これにより、チェーンが外れる恐れがあります。また、ギアを変更する際にペダルを早くこぎすぎないようにして下さい。

3. **バイク・フレーム、ハンドルバー、サドルの適切な調節の仕方について**
   バイク・フレームのトップ・チューブの上に立ってチューブと股の間の距離を確認して、フレームの大きさがお客様のサイズに合っていることを確認して下さい。お客様とトップ・チューブの間に指2~3本の隙間があれば適切な状態です。運転するバイクのフレームが大きすぎると、バイクから急いで降りた際に怪我をする恐れがあります。また、サドルもお客様に合わせて調節する必要があります。サドルに座り、ペダルを最も低い位置にして、足のかかとがペダルにちょうど届くようにサドルの高さを調節して下さい。サドルに座った際につま先が地面に着くかどうか確認して下さい。つま先が地面に着く場合は、サドルの位置が低すぎます。最後に、ハンドルバーをお客様がもっとも使いやすい高さに設定して下さい。

4. **クリップレスまたはステップイン式ペダルの適切な使用について**
   本バイクにはペダルは含まれていません。いかなる用途で本バイクをご使用になる前に、ペダルを購入し、適切に取り付けて下さい。必ず、ペダルのメーカーによって提供されている指示事項／警告をすべてよく読むようにして下さい。
   クリップレスまたはステップイン式ペダルをこれまでにご使用になられたことが無い場合は、バイクの運転を開始する前に、シューズをペダルにロックし、解除するという動作の練習をよく行って下さい。この動作に完全に慣れるまで、バイクを静止させた状態でこの練習を行って下さい。壁に寄りかかった状態でこの練習をすれば転倒することはありません。その後、必要に応じてロックおよび解除システムを調節して下さい。

5. **意図されている使用目的においてのみバイクを使用して下さい**
   各種バイクの違いを学び、理解するようにして下さい。ロード・バイクやトライアスロン・バイクはモトクロス・バイクとは異なります。前者は、例えばタールが塗られた、または舗装された道路や路地など、滑らかな地面における走行のみを想定して設計されています。他方、オフ・ロードバイクは道路以外での場所での走行を想定して設計されています。

PREVIEW
NOT FOR OUTPUT

必ず行うべき重要な点検事項

1. **フロント・ホイールとリヤ・ホイールのクイック・リリース・レバー、シート・ポスト、その他のあらゆる取り外し可能なパーツが適切に装着されていることを確認して下さい。これを怠ると、重大な事故、身体のあらゆる部位の怪我、または死に至る恐れがあります。**

2. **タイヤが道路上の使用に適した状態にあるか？空気圧は適切か？**
   タイヤを点検する場合は、ホイールを回してリムが正常な状態にあるかどうか確認することができます。また、タイヤに破裂している箇所が無いかも確認してください。最後に、ホイールのスポークや車軸に損傷が見られないか点検して下さい。

3. **ブレーキが良好な状態にあり、正常に作動するか点検して下さい。**
   安定した状態でブレーキ・レバーを強く握るだけでブレーキをテストすることができます。ブレーキが正常な場合、直ぐに圧力ポイントに達します；ほんの少しレバーが動くだけでブレーキの圧力を感じ始めるはずです。この場合、ブレーキは良好な状態にあります。ブレーキ・レバーはハンドルバーに接触してはいけません；接触する場合は、ブレーキを調節するか、または整備する必要があります。また、ブレーキ・レバーに圧力をかけた際にブレーキ・パッドが接触するか確認して下さい。パッドはリムにのみ接触し、パッドの表面全体がリムを打つはずです。パッドはタイヤにまったく接触しないはずです。

4. **公道を走行する場合は、関連するあらゆる法律上の要件について理解しているようにして下さい。**

5. **夜間に走行する場合は、バイクに良質のライトを装着して下さい。ライトなしで走行しないで下さい。反射服を着用し、他の道路利用者に見えるようにして下さい。**

ブレーキを点検します

完全に閉じた状態のレバー／完全に閉じていない状態のレバー

適切なライトします

空気圧を点検します

REVIEW FOR OUTLET

バイクの整備

バイクの性能を最大限に引き出せるよう、定期的にバイクを整備する必要があります。ご購入頂いたニール・プライド社製バイクは、走行距離が100〜300キロに達した後（恐らくご購入後6週間以内）に定期整備を開始する必要があります。初期によく見られるトラブルには、スポークの張力の低下、ギアの調節のズレ、ケーブルの伸長、ベアリングの慣れなどがあります。

1. ニールプライド社製バイクの清掃および潤滑

ご購入頂いたニールプライド社製バイクを毎回運転後に清掃することをお勧めします。その際、高圧洗浄機や化学剤のご使用をお避け下さい。圧力洗浄機を使用する必要がある場合は、水を直接ジョイントやベアリングに浴びせないようにして下さい。損傷や調整の変更の原因になる恐れがあります。

清掃後、直ぐに柔らかい布でバイクを拭いて乾かして下さい。これにより、金属製パーツのさびや腐食を防ぎます。バイクを拭いている間にバイクの様々なパーツを点検することにより、潜在的な問題や、注意を要する摩耗や亀裂を発見することができます。

バイクが乾いたら、乾燥した清潔な場所に保管する前に、チェーン、歯車、その他のあらゆるドライブ・トレイン・パーツを潤滑して下さい。バイクを損傷しないよう、適切な潤滑油を必ず使用して下さい。その際、ブレーキの点検や、ホイールの変形の確認など、その他の点検作業を行って下さい。

2. 摩耗および亀裂

ご購入頂いたニールプライド社製バイクの個々のパーツを定期的に点検して下さい。特に摩耗や亀裂が生じやすいパーツを念入りに点検して下さい。特に心配なパーツがある場合は、そのパーツのメーカーの取扱説明書を確認するか、または専門家にご相談頂く必要があります。決して深刻になるまで問題を放置しないで下さい。大抵の場合、予防は修復よりも容易です。

3. ライダーの最大重量

ニールプライド社製バイクは、体重が最大110キロまでのライダーを想定して設計されています。この制限を超える方の場合、保証条件に反する可能性があります。

PREVIEW
NOT FOR OUTPUT

バイクの組み立て

先ず、ご購入頂いたバイクが梱包されている箱の中身を確認して下さい。箱の中には、組み立て前のフレーム、ホイール・セット、構成パーツが入った小さな箱が入っているはずです。

- 先ず、箱からフレームとホイールを取り出して下さい。その後、構成パーツが入った小さな箱を確認して下さい。
- 注意しながら梱包材をバイクから取り外して下さい。その際、ハンドルバーが落ちて損傷しないようにハンドルバーを握って下さい。バイクを組み立てる際、カーボン・ファイバー製のフレームのいかなる部分もクランプで締め付けないように注意して下さい。
- 次に、締め付けボルトをステム・キャップから外してキャップ自体を取り外して下さい。その際、ハンドルバーがステム・クランプの　ちょうど中心に位置するように注意して下さい。また、ボーデン・ブレーキ・ケーブルがブレーキまたはケーブル・ストップに向かって滑らかな曲線を描いており、曲がったりねじれたりしていないことを確認して下さい。ステムの締め付けボルトをゆっくり締めて、ハンドルバーが適切な位置に維持されるようにして下さい。必ず、ホイールを適切な位置に取り付けてから、ハンドルバーの取り付けを完了して下さい。
- カウンター・ナットを手に取り、クイックリリースのネジを注意しながら外して各ホイールの中空アクスルにナットを挿入して下さい。次に、各ホイールの両側にスプリングを取り付けて下さい。その際、スプリングの小径部先端がホイールのハブに面しているようにして下さい。カウンター・ナットを完全に1 ~ 2 回まわして締め付け、スプリングを所要の位置に維持して下さい。

バイクのフロント・ブレーキとリヤ・ブレーキのレバーを閉じます

ケーブルがスムーズに配置されていることを確認します

ホイールが適切に装着されていることを確認します

- フロントおよびリヤ・ブレーキのレバーを解除してバイクのブレーキを開けて下さい。
- 次に、リヤ・ホイールを所要の位置に取り付け、クイックリリースを閉じてしっかり固定して下さい。
- フォークにフロント・ホイールをはめ、クイックリリースを閉じて取り付けて下さい。
- 次に、バイクのフロントおよびリヤ・ブレーキのレバーを閉じて下さい。
- 両方のホイールがそれぞれのドロップアウトに適切に置かれ、フォーク・アームおよびリヤ・ステーのちょうど中心で回転することを確認して下さい。次に、ホイールを回転させてブレーキとリムの間の間隔を確認してホイールが適切な位置にあることを確認してください。この間隔が　1　ミリ以上異なる場合は、ホイールの配置を修正する必要があります。

PREVIEW
NOT FOR OUTPUT

- ペダルを取り付ける前にアクスルのマークをお読み下さい。「R」は右ペダルを意味し、「L」は左ペダルを意味します。左ペダルは、慣れている時計回りではなく、反時計回りで締まります。これは、左巻きのねじ山が使用されているためです。各ペダルを手で 2 ～ 3 回まわしてクランクのねじ山に取り付けてからスパナを使用してしっかり締め付けて下さい。
- シート・ポストをチューブに入れてサドルがトップ・チューブと一直線になるように適切に配置して下さい。適切なトルクでシ ート・クランプを締め付けて下さい。
- サドルとハンドルバーの最終調整を行い、ハンドルバー、グリップ、およびシート・ポストが所要の場所に指定のトルクでしっかり固定されていることを確認して下さい。
- リヤ・ホイールが自由に回転し、ギアが適切に作動することを確認して下さい。ギアの作動を点検するため、チェーンが一番大きなスプロケットにかかっている時にリヤ変速機がスポークにぶつからないことを確認しながらギアを1段ずつ変えて下さい。
- 次に、各タイヤの側面に書かれている圧力レベルに達するまでタイヤに空気を入れて下さい。
- 最後に、本取扱説明書の前の項に記載されている点検作業を実施して、バイクの組み立てを完了して下さい。

閉じた状態のブレーキ・レバー

サドルがしっかり固定されているかどうか確認します

リヤ変速機がスポークに接触していないことを確認します

PREVIEW
NOT FOR OUTPUT

クイックリリース機構の使用

クイックリリースの使用はとても簡単ですが、不適切な使用による事故が起こりやすいことにご注意下さい。ご購入頂いたニールプライド社製バイクのクイックリリース・リテンション機構は操作可能な2つのパーツで構成されています：

- ハブの片側にはハンド・レバーがあります。このレバーを閉じると、カムの使用によってクランプ力が発生します。
- ハブの別の片側には締め付けナットがあります。このナットを使用してねじ棒の圧力を設定することができます。

クイック・リリース・レバーを閉じます／クイック・リリース・レバーを開きます

ホイールをしっかり取り付ける方法

- クイックリリースを開いて、レバーに「Open」と表示されるようにして下さい。
- レバーの外側に「Close」と表示されるまでレバーをゆっくり動かして下さい。レバーを閉じ始めてから途中まで、ホイールを実際に締め付けることなく簡単にレバーを動かせるはずです。
- 後半からレバーを動かすのに必要とする力が著しく増加します。最後の方ではレバーを動かすのが非常に困難になります。（フレームやフォークなど）バイクの動かない部分に指をかけて引っ張りながら、親指のふくらみで最後までレバーを押す必要があります。損傷する恐れがあるので、スポークまたはブレーキ・ディスクを引っ張ったりつかんだりしないで下さい。
- これでレバーはバイクと平行しているはずです。レバーが片側に突き出していないことを確認して下さい。偶発的にレバーが開くのを防ぐため、レバーがフレームと近い位置にあることを確認して下さい。
- レバーが所要の位置にしっかりロックされていることを確認するため、閉じている状態のレバーを回そうとしてみて下さい。
- レバーがまだ動く場合は、ホイールが適切に固定されていないことを意味します。この状態を修正するため、レバーを再度開き、ナットをさらに締め付けて下さい（約反回転）。これにより圧力が増加し、ホイールが所要の位置に固定されます。
- 再度注意しながらレバーを閉じて、レバーが締まっている状態にあることを再び確認して下さい。レバーがこれ以上回らなければ、レバーが適切に固定されていることを意味します。
- 最終確認のため、バイクを地面から数センチ持ち上げ、吊らされたタイヤを上から叩いてタイヤが少しでも動くかどうか確認して下さい。ホイールが動かず、フレームのドロップアウトにしっかり固定された状態に維持されていれば、適切に固定されていることを意味します。

PREVIEW NOT FOR DISTRIBUTION

ペダル・システム

ペダルの取り付けおよび設定手順については、ペダルおよびシューズに関する特別な指示事項／警告が記載された説明書を参照して下さい。

シューズの種類によってはサイクリングに不適切なものがあることにご注意下さい。しっかりしたサポートを提供する固い靴底を持つシューズがサイクリングには最適です。靴底が柔らかすぎるとペダルからの圧力が靴底を伝わり、足に不快感や痛み、負傷をもたらす恐れがあります。また、靴底の幅（特にかかと付近）がありすぎるとペダルをこぐ妨げになることがある点にもご注意下さい。靴底の幅がありすぎるとペダルの自然な位置に足を置く事ができず、後で膝に痛みをもたらす恐れがあります。

クリップレスまたはステップイン・ペダル

シューズをロックおよび解除する機能があるペダルが最良のペダルです。この種のペダルはクリップレスまたはステップイン・ペダルと呼ばれます。これらのペダルは靴底をペダルにしっかり固定し、起伏のある地面の走行中や早いスピードでペダルをこいでいる際に足が滑ってペダルから外れるのを防ぎます。さらに、これらのペダルはペダルの押し引きをしやすくします。これにより、ペダルをこぐのがよりスムーズで容易になります。さらに、ペダルのスピンドルの適切な位置に足の親指のつけ根のふくらみを置くことができるというのもクリップレス・ペダルの優れた特徴のひとつです。この利点により、バイクを運転する際に足がフロント・ホイールの邪魔になることがありません。

クリップレスまたはステップイン・ペダルには、スキーの締め具と似たような方式でペダルにロックできる、特別にデザインされたサイクリング・シューズが常に付いてきます。このシューズをペダルにはめて所要の位置にしっかりロックするには、シューズのクリートまたはソール・プレートを使って水平になるようにペダルを回転させて足を乗せます。カチッと音がしてシューズが所要の位置に明らかにはまる感覚がしたら、シューズがロックされたことを意味します。

シューズをペダルから解除する場合は、かかとを外側にひねります。初めてこの動作を行う場合は、倒れないように壁にもたれるか、誰かに体を支えてもらうことをお勧めします。数回の練習でこの動作を楽に行えるようになるはずです。

シューズのクリートの形や、解除に必要な角度、固定の度合いなどは、ペダル・システムの種類によって異なる場合があります。以前に膝を痛めたことがあるサイクリストの方には、いくらか弾力性のあるペダル・システムを選ぶことをお勧めします。これにより、ペダルに固定されている間でもシューズのかかとを左右に若干動かすことができます。

ペダル・システムの調節および整備

市場には様々な形やデザインのペダル・システムが溢れていますが、以下のペダル・システムの調節および整備に関する一般的なガイドラインは、あらゆる種類のペダル・システムに当てはまります。

- シューズのクリートがしっかり固定されており、ペダルに足を置いた際に足の親指のつけ根のふくらみがペダルのスピンドル自体に直接当たることを確認して下さい。
- ペダルをこぐ間、足が自然な位置にあり、不快感が無いことを確認して下さい。通常かかとが若干内側に向き、つま先が若干外側に向いている状態が最も自然な位置であるとされています。
- 締め付けボルトを適切な位置で締め付けて下さい。この作業が行われず、プレートが少しでも緩んでいると、シューズの解放がほとんど不可能になり、重大な怪我や事故に繋がる恐れがあります。
- 走行し始める前に、ロックの解除に必要な力を調整する必要があります。初心者の方は、解除に必要な力を弱く設定することをお勧めします。適切な工具を使用してボルトを少ずつ回し、シューズをペダルにロックし、ロックを解除しながら、解除に必要な力の差を確認して下さい。走行し始める前に、ロックの解除を最もしやすい力に設定して下さい。
- スプリングや露出しているその他のペダル・システムのパーツを定期的に点検する必要があります。これらのパーツを頻繁に掃除し、汚れをおとした後、必ずグリースを塗布するようにして下さい。
- 少量のグリースをペダルとクリートの接点に塗布することで、クリートのきしむ音を完全に除去することができます。
- クリートを定期的に点検して、摩耗や亀裂の兆候が無いか確認する必要があります。走行中、ペダルに少しでも横方向のゆるみがあることに気付いた場合は、クリートまたは靴底が摩耗しており、交換する必要があることを意味します。

PREVIEW
NOT FOR OUTPUT

フレーム・セットの組み立て

カスタマイズされた調整を可能にするため、ニールプライド社では、高品質のカーボン・ファイバー製のフレームを複数取り揃えております。これらのフレームにはすべてパーツが梱包されており、ご自宅で組み立てることができます。

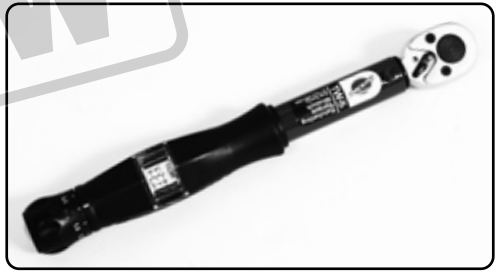
どの追加パーツが必要かを判断する際は、お客様が責任を持ってすべてのパーツが完全に適合し、適切に取り付けられていることを確認して下さい。多数の様々な追加パーツがございますので、ニールプライド社が本取扱説明書にてすべての組み合わせの構成について説明するのは不可能です。また、お客様の意思でご使用になるいかなる追加パーツ　またはパーツの機能および適合性について、ニールプライド社は責任を負わない事に留意して下さい。ご購入頂いたニールプライド社製バイクにお客様の判断で取り付けることになされた各パーツまたは追加パーツに関する取扱説明書を必ずよくお読み下さい。また、オンラインでパーツ・メーカーによって更新される指示事項を確認するようにして下さい。構成パーツに関して 熟練した自転車技士にご相談なされるという方法もあります。

必ず指定のトルク仕様に従います

経験が少ないお客様が構成パーツを選んだりニールプライド社製バイクに取り付けたりするのは危険です。従って、熟練した自転車技士にバイクを組み立ててもらうことをお勧め します。

フレームはすべて、すぐに組み立てられる状態で発送されます。フレームに機械を使って加工を施したり、切断したりする必要はまったくありません。決してフレームまたはその付属品を改造しないで下さい。

フレームを組み立てる際、許容最大トルクに近づくまで、注意しながらボルトを少しずつゆっくり締め付けて下さい。　上述の章に記載されているように、パーツがしっかり確実に固定されていることを確認して下さい。トルクの範囲が分からないパーツについては、上述のように、最大トルクに達するまでボルトを少しずつ締め付けながら、パーツが所要の位置にしっかり固定されていることを確認して下さい。


必ずトルク・レンチを使用します

PREVIEW OUTPUT

フォークの切断および取り付け

ご購入頂いたニールプライド社製フレームセットにはヘッドセットが付いています。ヘッドセットに関する特別な手順、指示事項および警告については、ヘッドセットのサプライヤーによって提供されているマニュアル／ウェブサイトをご参照下さい。

お選び頂いたステムおよびハンドルバーと一緒にフォークを取り付ける場合は、必ず専門技士に依頼して下さい。

ニールプライド社製フォークはフレームのサイズに合わせて予め切断されており、さらに切断する必要はありません。フォーク・ステアラー・チューブをさらに短く切断したい場合は、ご自分でこの作業を行わないで下さい。この作業は特別の工具のみを使用して、専門技士によって行われる必要があります。

フォークの切断に関する注意事項

1. ステアラー・チューブの切断によって生じる粉塵を避けるため、フェース・マスクと保護メガネを着用して下さい;
2. カーボンを切断するのに適したブレード（カーボン専用ブレードまたは32歯／1インチ以上の細かい歯が付いているブレード）を持つのこぎりを使用して下さい;
3. 切断面がチューブと垂直になるように、フォーク・ステアラー用の切断ガイド・ツールを使用して下さい;
4. 切断する前に、ステアラー・チューブの下部最終切断マークのすぐ下の部分をマスキング・テープで覆って下さい。これによって繊維が擦り切れる量を抑え、よりクリーンな切断を行うことができます;
5. カーボンを切断する際、のこぎりに軽い圧力を加えて下さい。作業を早める為にブレードに無理な力を加えないで下さい;
6. ステアラー・チューブを切断したら、きめの細かいサンドペーパーを使用して先端部分に丸みを付け、余分な粉塵をふき取って下さい。

PREVIEW
NOT FOR OUTPUT

特別なニーズに合わせてバイクを調節する

バイクの乗り心地や健康のためにもシートの位置は非常に重要です。また、シートの位置は、ニールプライド社製バイクの性能を最大限に引き出すのに貢献するという点においても重要です。時間をかけて、サドルとハンドルバーの両方をできるだけ正確に調節して下さい。

バイクのフレーム・サイズを選ぶ上で最も重要な要因は身長です。バイクの種類（オフ・ロード、ロード・バイク）によって走行姿勢が異なります。但し、ニールプライド社製バイクのパーツによっては、お客様の体型に合わせて調節し、走行の快適さや滑らかさを最適化することができます。これらのパーツには、ステム、ブレーキ・レバー、シート・ポストが含まれます。

フレームが高すぎるバイクに乗らないで下さい。股との間隔が狭すぎると、バイクにまたがって立った際に重大な怪我につながる恐れがあります。

股とトップ・チューブの間に十分な間隔があることを確認します

設定

バイクの性能を最大限に引き出せるよう、走行前にいくつかの設定を調整する必要があります。これにより、もっとも安全かつ快適な走行をお楽しみ頂けます。

サドルの高さの設定

ペダルを楽に快適にこぐことができるよう、体型に合わせてサドルを適切な高さに調節する必要があります。

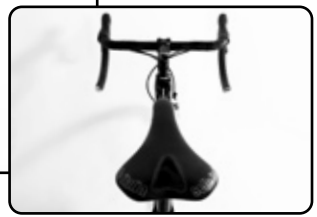
ペダルング中、足の親指のつけ根のふくらみがペダルのスピンドルの中心に直接当たるようにして下さい。足をこの位置に置いた場合、ペダルが回転の最も低い位置にある時に足を完全に伸ばしきることができないはずです。これがペダリングにおける最適なポジションです。サドルの位置が高すぎると、ペダルが回転の最も低い位置に達する時に困難が生じ、ペダリングがぎこちなくなります。また、サドルの位置が低すぎると、しばらくした後、膝の関節に痛みが生じる恐れがあります。以下に、サドルを適切な高さに設定するための手順を記します。尚、この手順は、靴底が平らなシューズを着用して行う事をお勧めします。

- サドルに座りながら、ペダルを最も低い位置にして足のかかとをペダルに置いて下さい。このポジションで、足が完全に伸びきり、腰が少しも横に傾いていない状態にして下さい。
- サドルを所要の高さに調節して下さい。シート・ポストが簡単に動かない場合は、無理に動かそうとしないで下さい。
- サドルをフレームに対して直線上に位置するようにして下さい。その際、サドルのノーズ、トップ・チューブまたはボトム・ブラケットを基準にして下さい。
- サドルを所要の位置に設定したら、シート・ポストをしっかり締め付けて下さい。規定のトルクに達するまで、シート・ポストのボルトを時計方向に回して締め付けて下さい。この作業はそれ程力を必要としないはずです。強い力を必要とする場合は、シート・ポストのサイズが不適切である可能性があります。
- サドルがシート・チューブに挿入されている状態で、サドルを両手で抱えて回そうとしてみて下さい。サドルがまだ動く場合は、シート・クランプが十分に締め付けられていないことを意味します。
- サドルに座り、地面に足を伸ばして、バイクの上でバランスが取れるか確認して下さい。もし安全にバランスが取れない場合は、サドルをさらに少し下げて下さい。

ペダルを最も低い位置にしてかかとを乗せた時に足が完全に伸びきる状態にします

シート・クランプのネジを緩めてサドルの高さを調節します

サドルをひねってみて、しっかり固定されているかどうか確認します



トップ・チューブとサドルの位置を確認します

PREVIEW
NOT FOR OUTPUT

サドルの傾き、前部および後部のポジショニング

走行の快適さおよびペダリングのパフォーマンスは、体の傾きだけでなく、その他の複数の要因によっても決定されます。これらの要因には、サドルの傾きやハンドルバーのグリップとサドルの間の距離が含まれます。バイクのサドル・レールの位置を変更することにより、わずかながらこの距離を調整することができます。尚、この調整はペダリングに影響することにご注意下さい。サドルの位置、すなわちサドルがフレームの前方または後方にあるかによって、足がバイクのペダルに届くかどうかがある程度左右されます。最も快適にペダルをこぐには、サドルを水平に設定する必要があります。サドルが少しでも傾いていると、サドルから滑り落ちるのを避ける為、常にハンドルバーにもたれるか、ハンドルバーで体を支える必要が生じます。

傾きおよびサドルの位置の調整

まず、シート・ポストのトップ・クランプ・ボルトを取り外して下さい。ボルトを反時計方向に最大 2 ~ 3 回まわして下さい。そうしないとシート・ポストの組み立てが完了しません。

次に、サドルを前後に動かして所要の位置にし、サドルの傾きを修正して下さい。サドルが簡単に動かない場合は、軽く叩いてサドルを解放して下さい。ボルトを再度締め付ける際、シートが水平な位置にあるようにして下さい。また、この手順を行う間、バイクが必ず平らな地面の上にあるようにして下さい。

サドルを最適な位置に設定したら、両方のクランプをサドル・レールに適切に合わせて下さい。次に、前述と同様にして、規定のトルクに達するまで、シート・ポストのボルトを締め付けて下さい。サドルを固定し終わったら、両手でサドルに全体重をかけてもサドルがまったく傾かないことを確認して下さい。サドルの前部と後部の両方に対してこの作業を行って下さい。

「QFit」システム

ニールプライド社製バイクには、シート・ポストをフレームから取り外す必要がある度にお客様のサドルの高さを記憶する「QFit」システムが付いてきます。

「QFit」システムをセットする場合は、幅が最も広い部分が下を向いていることを確かめながらシステムをシート・ポストに取り付けて下さい。次に、シート・ポストをフレームのシート・チューブに挿入して下さい。サドルを適切な高さに調節し、シート・クランプを規定のトルクで所要の位置に締め付けてから、「QFit」システムを取り付けて下さい。「QFit」システムのカラーをプラスチックのスリーブの一番下までスライドさせて下さい。これでシステムがセットされ、シート・ポストが取り外された際、適切なサドルの高さを記憶します。

最大トルクを超えないようにしながら締め付けます

サドルがしっかり固定されているかどうか確認します

PREVIEW
NOT FOR OUTPUT

ハンドルバーの高さの設定

特別な手順、指示事項および警告について、ステムのサプライヤーの取扱説明書を再度確認して下さい。

上半身の傾きは、バイクのハンドルバーの高さによって決まります。ハンドルバーの位置が深いほど、体の傾きが大きくなります。体の傾きが大きくなると、より効率的な姿勢になり、より多くの体重がフロント・ホイールにかかります。ただし、上半身の傾きが大きくなりすぎると不自然な姿勢になり、腕や手首、上半身、首などに不快感を覚えるようになります。従って、次の手順に留意し、ハンドルバーを適切に調節することが大切です。

- 先ず、フォークのステアリング・チューブのトップ・ボルトを取り外します。これにより、最初のベアリングの圧力が変わります。これで、ヘッド・キャップを外すことが可能になります。
- ステムのサイド・ボルトを取り外してから、ステムを完全にフォークから取り外して下さい。
- スペーサーを取り外して下さい。
- ステムをステアリング・チューブに取り付けてから、その真上にスペーサーを置き直して下さい。ステムを回転させたい場合は、バイクのハンドルバーを取り外す必要があります。
- ハンドルバーを取り外す場合は、ステムの前部にある締め付けボルトを外して、注意しながらハンドルバーを持ち上げて下さい。
- ステムを回転させた後、注意しながらハンドルバーを再度取り付けて下さい。
- ハンドルバーをまっすぐ適切にステム・クランプに挿入して下さい。その際、ドロップが水平な位置にある、または後部に向かってやや下に傾いていることを確認して下さい。
- トルク・レンチを使用して、ステムの締め付けボルトを再度すべて締め付けて下さい。必ず規定のトルク設定に従ってボルトを締め付けて下さい。これでベアリングの再調整が可能になります。
- ステムはフロント・ホイールの直線上になければなりません。ハンドルバーが走行方向に対して正確に直角をなすようにして下さい。ステムの位置を合わせたら、規定のトルクでステムを締め付け、ステムをひねるテストをしてステムが適切に固定されていることを確認して下さい。

フォーク・ステアリング・チューブのトップ・ボルトを外します／ステムの両サイドのボルトを外します

ステムの下にあるスペーサーを取り外し、ステムの上に置きます

ベアリングを再調整します

規定のトルクでステムを再度締め付けます

PREVIEW
NOT FOR OUTPUT

ヘッドセット

特別な手順、指示事項および警告について、ヘッドセットのサプライヤーの取扱説明書を再度確認して下さい。

ヘッドセットは、フレームにハンドルバー、フォーク、ステム、フロント・ホイールを接続し、これらが完全に一体となって機能することを可能にする非常に重要なパーツです。バイクを直線走行する場合は、ヘッドセットは曲がる事に対してまったく抵抗しないはずです。尚、起伏のある地面を走行することによってかなりの圧力がかかり、ヘッドセットの緩みや位置ずれが生じやすくなります。

ヘッドセットの整備および再調整

- 上部ヘッド・キャップの回りに手を置き、いつでもヘッドセットのゆるみをテストすることができます。
- フロント・ブレーキを作動させ、バイクを前後に激しく動かして下さい。
- ベアリングにゆるみがあると、上部ヘッド・キャップの動きが下部ヘッド・キャップよりも明らかに大きくなります。
- また、フロント・ホイールを地面から少しだけ持ち上げてヘッドセットを点検し、ホイールを地面に落とします。ヘッドセットの周辺から明らかにがたがたいう音が聞こえたら、ベアリングにゆるみがあることを意味します。
- フレームを持ち上げてフロント・ホイールが地面に接触していない状態にしてベアリングを点検し、スムーズに作動していることを確認して下さい。ハンドルバーを右から左に動かすと、どこにもひっかからず簡単に動くはずです。抵抗を感じた場合は、ベアリングを調整する必要があります。ほんの軽く触れるだけでハンドルバーを動かすことができるはずです。

PREVIEW
NOT FOR OUTPUT

ブレーキ・レバーおよびハンドルバーの調整

特別な手順、指示事項および警告について、ハンドルバーのサプライヤーの取扱説明書を再度確認して下さい。

あらゆるロード・バイクにおいて、ストレート・バー・エンドは、地面と平行になっているか、またはバイクの後部に向かってがやや下に傾いている状態にあります。ドロップの下から真っすぐ延長線上に伸びたラインを想像してください。両ブレーキ・レバーの先端がこの想像上のラインと一致するはずです。 ブレーキ・レバーの位置を変更したい場合は、終了後に再度ハンドルバーのテーピングが必要となるので、専門家に依頼することをお勧めします。

ドロップの下にある真っすぐなエクステンションが地面と水平な位置にある、または後部に向かってやや下に傾いていることを確認します

規定のトルクでボルトを締め付けます

ハンドルバーは急な強い引っ張りに耐えられなければなりません

ブレーキのグリップ幅

ハンドルバーを動かして位置を緒節する

- ステムの前部または底部にあるアレン・ボルトを外して下さい。
- ハンドルバーを適切な位置にして下さい。
- ハンドルバーがステムのちょうど中心にあることを確認して下さい。
- 規定のトルクでボルトを再度締め付けて下さい。

両ブレーキ・レバーをつかんで、ハンドルバーがしっかり所要の位置に固定されていることを確認して下さい。ハンドルバーが適切に取り付けられている場合、ハンドルバーはブレーキ・レバーの急で強い動きにも耐えられます。そうでない場合は、ハンドルバーがブレーキ・レバーの急で強い動きに耐えられるようしっかり固定されるまで、再度ボルトをゆっくり締め付けて下さい。

PREVIEW
NOT FOR OUTPUT

ギア

特別な手順、指示事項および警告について、ギアのサプライヤーの取扱説明書を再度確認して下さい。

ニールプライド社製バイクのギアは、道路の傾斜、風況、走行速度に合わせてペダルのパワーを調節します。

ギアの機能は、関連する物理的作業を減らすのではなく、クランクの回転ごとに必要とされる力の量を減らすことにあります。ギアのおかげで、ほどほどのペダリング労力で急な上り坂を走行することができます。ただし、必要なパワーを持続するため、通常よりもペダルを早くこぐ必要があります。

下り坂を走行する際は、ギアを上の段に切り替える必要があります。ペダルが回転する毎に高速で何メートルも前進します。最も効率的に走行するためには、ギアを頻繁に切り替える必要があります。

効率的な走行を実現するため、最新式の高性能ギアは操作が簡単で、細かい段階の調整が可能です。

これらの機能に加えて、ギア・システムはスプロケットやチェーンの摩耗を抑え、膝への負担を軽減するのに役立ちます。

シフト／ブレーキ・レバー

PREVIEW

ギアの理解および適切な使用法

ニールプライド社製バイクのギア・レバーはブレーキ・レバーに統合されています。小さなレバーを内側に押すと、チェーンが小さなスプロケットに移動します。

ギア・レバーの切り替えは、ボーデン・ケーブルによってギア・チェンジャーに伝えられます。これにより、ギア・チェンジャーが回転し、チェーンが次のスプロケットに移動します。ギアを切り替える際は必ず、力を入れすぎないようにしながらスムーズにペダルをこぎ続ける必要があります。チェーンがスプロケット間の移動を完全に終えるまで、そのまま一定のペースでペダルをこぎ続けて下さい。そうしないと、チェーンが外れたり、損傷したりする恐れがあります。

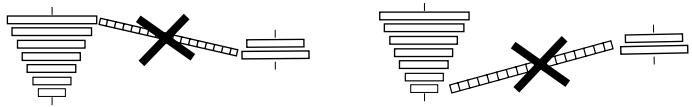
重い荷をバイクに乗せた状態でギアを切り替えると、チェーンに大きな圧力が加わり、チェーンの耐用年数が大幅に縮まります。これを防ぐため、力を入れてペダルをこいでいる間はギアの切り替えを避けて下さい。このアドバイスは、フロント変速機のギアを切り替える際に特に重要です。

ギア・メーカーの指示事項および警告に従って、ギアの切り替えシステムの点検および整備を定期的に行うことをお勧めします。

警告!

チェーンの損傷または摩耗を防ぐため、以下の組み合わせによるギアの使用を避けることをお勧めします。(右の図を参照)

- 最大スプロケット - 最大チェーン・ホイール
- 最小スプロケット - 最小チェーン・ホイール



ホイール

特別な手順、指示事項および警告について、ホイールのサプライヤーの取扱説明書を再度確認して下さい。

地面の起伏、サイクリストの体重に加えて、ニールプライド社製バイクに取り付けられているあらゆる積荷の重さのため、使用期間を通じてホイールは常に圧力を受けています。ホイールの製造および発送には十分な注意が払われていますが、使用開始から最初の数キロは、たとえ適切に使用していても、多少の摩耗が生じることがよくあります。スポークやニップルなどのパーツは、初期にわずかな圧迫でゆるむことがあります。このため、100～ 200 キロ以上走行した後、ホイールを適切に調整する必要がある場合があります。

ホイール・メーカーの指示事項および警告に従って、使用後ホイールを点検する必要があります。ホイールのハブ、リム、およびスポークは特に点検が必要です。スポークを特に頻繁に締め付ける必要はありません。ホイールのリムに取り付けることによってタイヤがインナー・チューブを包みます。インナー・チューブは非常に損傷しやすいため、リム・ベースの付近でリム・テープによって守られています。これにより、尖ったスポーク・ニップルやリムの端からインナー・チューブをある程度守ることができます。

タイヤを交換し、新しいタイヤをニールプライド製バイクに装着する場合、古いタイヤの寸法を確認しておく必要があります。 タイヤの寸法は、タイヤの端に記載されています。新たに装着するタイヤは古いタイヤと同じサイズのものでなければなりません。古いタイヤよりも大きいサイズのタイヤを装着すると、新しいタイヤがリヤ・フレームまたはフォークに引っかかる恐れがあり、バイクやタイヤを損傷する可能性があります。

タイヤが正常かつ極めて効率よく機能するためには、推奨空気圧に達するまで適切にタイヤに空気を入れる必要があります。これにより、走行中にタイヤの空気が抜けにくくなります。空気圧が少なすぎると、尖った物体の上を走行した際にタイヤの損傷やトラブルが生じる恐れがあります。推奨空気圧はタイヤの側面またはタイヤのラベルに記載されています。尚、規定値には2 種類あります。高い方の数値は一般道路(平らな地面)での走行に最も適しています。低い方の規定値はオフロード走行に適しています。これは、地面の凹凸に対してより高いクッション力で対応するためです。空気圧が高くなるに従って 回転抵抗が少なくなりますが、ライダーにもたらす快適さのレベルも下がります。

タイヤの多くが、特定の方向のみの走行を前提に設計されていますが、これはタイヤのモデルによって異なります。従って、タイヤの性能を最大限に引き出すために、常にタイヤを点検し、適切に装着して、タイヤが適切な方向に回転するようにして下さい。尚、この情報はタイヤの側面に記載されています。

タイヤのサイズおよび空気圧

レース・バルブ

PREVIEW
NOT FOR DISTRIBUTION

摩耗や亀裂に関する注意事項

走行中にバイクとそのパーツに自然な摩耗や亀裂が発生することがあります。摩耗や亀裂の度合いは、バイクへのケアや整備に対する注意だけでなく、バイクの使用の仕方（走行距離や走行する地面のタイプなど）にも影響されます。使用しない時は、バイクを乾燥した場所に保管する必要があります。これを怠ると、バイクがいたみ、摩耗や亀裂がひどくなる恐れがあります。

いずれにしても、すべてのバイクのパーツをいつかは交換する必要があります。これには次のパーツが含まれます：ハンドルバーのグリップおよびテープ、チェーン、チェーン・リング、チェーン・ローラー、スプロケット、タイヤ、ホイール、ブレーキ・パッド、サドル・カバー、ギア・ケーブル。特別な手順、指示事項および警告について、サプライヤーの取扱説明書を再度確認して下さい。競争的なスポーツまたは起伏の激しい困難な地面でバイクを使用すると、これらのパーツを頻繁に交換する必要が生じます。また、ブレーキ・パッドを定期的に点検し、摩耗しきっている場合は、専門の自転車技士によって交換する必要があります。

リムおよびリム・ブレーキ

ブレーキの作動によって摩耗するのはブレーキ・パッドだけでなく、ホイール・リムも摩耗します。例えば、タイヤに空気を入れたら、必ずリムを定期的に点検して下さい。 リムによっては摩耗インジケーターが付いているものもあり、耐用年数の終わりに達すると、割れ目や丸い輪が現れます。古いリムを交換する際、同じサイズのリムが必要になりますので、リムの仕様を書き留めて置いて下さい。摩耗や亀裂のせいでリムが寿命に達していることを示す他の兆候として、側面の細かい亀裂や、明らかなリムの変形または歪みなどがあります。これらの兆候が見られる場合は、できるだけ早急にリムを交換する必要があります。

PREVIEW
NOT FOR OUTPUT

スポークの張力およびリムの正常さ

ホイールはスポークによってハブに接続しています。ホイールが正確に回転するには、均一なスポークの張力が必要です。スポークの張力が変わると、ホイールが正確に回転しなくなります。これは、ホイールに作用する張力のバランスが崩れるためです。スポークの破損や、凹凸のある場所でのスピードの出しすぎによって、スポークの張力が失われることがあります。ホイールが正常な状態でないと気付く前に、すでにブレーキの一般機能がぐらつきによって影響されている可能性があります。リムはリム・ブレーキの制動面として作用するため、正常な状態でないホイールは、ブレーキ力の大幅な喪失に繋がる恐れがあります。

ブレーキ・パッドでホイールが正確に作動するか確認します

カーボン・ファイバーの特徴

ご購入頂いたバイクの本体を構成しているカーボン・ファイバー（炭素繊維）強化プラスチックと呼ばれる素材は、他の軽量素材よりも優れた有益な特徴を数多く備えています。自信を持って高品質のニールプライド社製バイクの性能を最大限に堪能するためには、これらの特徴について理解しておくことが重要です。

ただし、カーボン・ファイバーには、弾力性がかなり低くもろいという欠点があります。カーボン・ファイバーに圧力を加えると、フレームやフォークの内部構造に持続的な損傷が生じても、永久的な変形や歪みを生じません。より極端なケースでは、層間剥離と呼ばれる、繊維が分離する現象が起こることがあります。このような損傷により、パーツの全体的な強度が極端に低下します。アルミやスチールと異なり、持続的な損傷や摩耗を受けるカーボン・ファイバー製のパーツには、明らかな変形の兆候が見られません。圧力や摩耗によって損傷しているカーボン・ファイバー製のパーツは、使用中に故障する危険があることにご注意下さい。これは、事故に繋がる恐れがあります。バイクに何らかのトラブルが生じた場合は、専門の自転車技士にバイクの点検を依頼し、いかなる損傷も無いことを確認することをお勧めします。

カーボン・ファイバーの整備

ご購入頂いたバイクのカーボン・ファイバー製のパーツは、柔らかい布を使用して定期的に水洗いする必要があります。必要に応じて、台所用洗剤を少量加えても構いません。グリースやオイルなどのしつこい汚れを取り除く場合は、石油系の洗浄剤を使用して洗って下さい。トリクロロエチレン、塩化メチル、アセトン、いかなる種類のソルベントおよびカーボン・ファイバーの表面を損傷する恐れのある化学物質を含む脱脂剤を決して使用しないで下さい。

通常の自動車用ワックスを使用して、カーボン・ファイバーの表面を保護し、艶を出すことができます。その他の種類の艶出し剤やニスは腐食性の固体成分を含んでいるため、表面を損傷する恐れがあります。また、ブレーキ効果を弱めるので、カーボン・ファイバー製のブレーキ・パーツに洗剤や潤滑材を決して使用しないで下さい。

PREVIEW
NOT FOR PRINT

バイクの適切なケアおよび点検に関する注意事項

バイクの保管

バイクは鍵のかかる安全で乾燥した場所に保管することをお勧めします。また、保管場所に十分な空気循環があることも確認して下さい。保管に関して、以下のアドバイスに留意して下さい。

- 長期間バイクを使用していなくても、インナー・チューブの空気圧は時間の経過とともに除々に低下します。長期間にわたり、タイヤの空気が抜けている状態でバイクを立たせておくと、タイヤの構造に支障をきたします。従って、バイクを長期間使用する予定が無い場合は、バイクを壁にかけて保管する必要があります。壁にかけるのが不可能な場合は、タイヤの空気圧を頻繁に点検し、必要に応じて空気を入れる必要があります。
- 保管する前にバイクを清掃し、腐食を防ぐための措置を講じて下さい。
- 水分がチューブに侵入した可能性がある場合は水分を蒸発させて下さい。そのためには、サドルを取り外し、シート・チューブの内部に霧状のオイルを少量吹きかける必要があります。ただし、チューブがカーボン・ファイバー製の場合は、この作業を行わないで下さい。
- ギアを一番下のレベル(例:最小のスプロケットとチェーン・リング)に設定して下さい。これにより、スプリングとケーブルがゆるみます。

推奨トルクの要件

ニールプライド社製フレーム:

ボトル・ケージのボルト	4.5 Nm	
交換可能な変速機のドロップアウト	2 Nm	
ニールプライド社製シート・ポスト・クランプ	ディアブロ	8 Nm
	アリゼ	10 Nm
ニールプライド社製アリゼ・シートポスト	10 Nm	

シート・ポストまたはステムに異なる仕様が記載されていない限り、またはメーカーの取扱説明書に特別な規定が無い限り、以下のトルク設定に従って下さい。

ステム

M5 ボルト	4.5 – 5.5 Nm
M6 ボルト	8 – 9.6 Nm
アヘッド・ステムによるボルトの調節	0.5 – 2 Nm

シート・ポスト

シート・ポストのヘッドにサドルを締め付ける場合:	
ボルトが一つのシート・ポスト	20 – 24 Nm
二つのボルトが一列に並んでいるシート・ポスト	6 – 9 Nm
走行方向に向かって二つのボルトが横に並んでいるシート・ポスト	2 – 14 Nm

PREVIEW
NOT FOR OUTPUT

公道での走行 - 法的要件

ご購入頂いたニールプライド社製バイクで公道または高速道路を走行する場合、その国／地域のバイクに関する道路交通法を遵守し、完全に装備する必要があります。特にライトやリフレクターに関する規則に注意を払って下さい。新しいバイクで出かける前に、お住まいの国の道路交通法やバイクに関するあらゆる法律を理解しているようにして下さい。

制限付き保証制度について

ニールプライド社は、**www.neilprydebikes.com**またはニールプライド社の認定販売店を通じて小売客によって購入されたニールプライド社製バイク・フレームの素材や製品の仕上がりに欠陥が無いことを、その小売客による購入日より10年間にわたって保証し、塗装の仕上がりやステッカーに欠陥が無いことを同じく購入日より2年間にわたって保証します。この保証は、最初に製品をご購入された小売買参人にのみ適用され、譲渡することはできません。

ニールプライド社製でないパーツについてはこの保証は適用されませんが、それらのパーツは各メーカーによって規定されている保証制度によって個別に保証されています。

お客様のクレームに速やかに対応できるよう、バイクの固有のシリアル・ナンバーと一緒にご購入の際に発行された領収書をご提出下さい。固有のシリアル・ナンバーはフレームにあります。ご購入日を証明できない場合は、該当するモデルが最後に生産された年、またはクレームの対象である製品の状態に基づいてニールプライド社が判断します。

ニールプライド社の制限付き保証制度またはそれに基づくクレームの手続きに関するご質問等については、ニールプライド社までメールにて（info@neilprydebikes.com）お問い合わせ下さい。ニールプライド社の保証センターは、お問い合わせの製品がこの制限付き保証制度の対象であるかどうか判断します。対象であると判断された場合、ニール・プライド社は、ニールプライド社独自の判断に基づいて、問題の商品の修理または交換を行います。

ご購入頂いたニールプライド社製バイクの耐久性を維持し、バイクの寿命を長持ちさせるため、意図されている目的のためのみにバイクをご使用下さい。また、お子様や荷物を運ぶ際の指示事項だけでなく、バイクで運ぶ積荷に関する仕様についてもご注意下さい。さらに、組み立てに関する指示事項や整備に関する推奨ガイドラインにも厳密に従って下さい。そのために、本取扱説明書またはパーツに関するその他のあらゆる取扱説明書に記載されているテストや方法に留意して下さい。

当社は、欠陥のあるフォークまたはフレームをそれらの後続モデルと交換する、またはそれらの修理を行う完全な権利を保持します。この制限付き保証制度によって保証されるのは上記の利益のみです。輸送費や組み立て費など、上記の欠陥に関するその他の費用の請求については、一切受け付けません。

怠慢（整備不良や不適切な保管、不十分なケアを含む）、擦り傷や塗装の剥がれを含む通常の摩耗や亀裂、商業目的、レンタル、トレーニング環境での使用、事故、荷物の積み過ぎなどによるいかなる損傷または不具合、誤用や不正使用によるいかなる損傷、フォークまたはフレームに対して施された改良または改造、バイクにその他のパーツを取り付けることによって生じるいかなる損傷、熱や固い物体による強打や衝撃、その他の　無責任なケア、整備または使用によるいかなる損傷も、この制限付き保証制度の対象外となることに留意して下さい。また、ジャンプやその他の種類の過度の圧力の結果生じた損傷も、この制限付き保証制度の対象外となります。

PREVIEW

前述の制限付き保証制度は唯一の保証制度であり、文書、口頭または暗黙の、品質および性能に関するその他全ての保証の代わりとなるものです。従って、これにより、商品性または特定の使用目的への適性に関するあらゆる暗黙の保証を含むその他すべての保証を無効とします。ニールプライド社は、契約の記述、不法行為、怠慢、厳格責任の有無を問わず、特別的、間接的、偶発的、結果的、法定的、警告的な損傷については決して責任を負いません。これには、本製品以外の所有物についての損害、本製品または他の所有物の使用についての損害、またはその他の経済的な損害が含まれますが、これに限定されるものではありません。ニールプライド社は、原因に関わらず、損害分担または賠償の責任を負いません。

地域によっては、法律上、暗黙の保証の有効期間に対する制限および／または偶発的あるいは間接的な損害の除外または制限が認められていない場合があり、上記の制限や除外が特定のお客様に適用されない場合があります。あらゆる保証制度において、ニールプライド社の義務は、法律が許す範囲で、ニールプライド社の制限付き保証制度にて規定されているものに限ります。この制限付き保証制度によって、お客様に特定の法的権利が付与されます。また、お客様はその他の権利も有していることがありますが、その内容は法的管轄区によって異なります。

本取扱説明書をお読み頂き有難うございました。ご購入頂いたニールプライド社製バイクを末長くご愛用頂けることを願います。

PREVIEW
NOT FOR OUTPUT